

三省堂『明解国語総合』（国総308）評価規準例案 資料

学習のねらい	○「私」とコーヒー屋の人たちとの結びつきの深まりを読み味わう。 ○できごとと、それに対する思いとを関連づけて捉える。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。 参考：B書くこと(2)ウ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。		
教材名	角田光代「ベトナムのコーヒー屋」	配当時間	2
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)(イ)・ウ(ア)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	人物の心情や行動を理解し、文中で示される人と人とのあたたかい交流について読み味わい、感じ取ろうとする。	旅先での「私」の状況、心情、その変化を理解し、深く捉えようとしている。	行動の観察
読む能力	描かれたエピソードから「私」の心情がどのように変化し、コーヒー屋の家族とどのように絆を深めていったかを理解している。	コーヒー屋の家族との交流をとおして「私」が得たものは何だったのか、人物の心情や考え方を理解している。	記述の確認
知識・理解	常用漢字の音訓の読みを理解している。	文中に出てくる常用漢字が音読できている。	行動の観察

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。	文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりにしようとしている。	行動の観察
読む能力	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。	記述の確認
知識・理解	常用漢字の読みに慣れている。	常用漢字の音訓を正しく読んでいる。	行動の観察

学習のねらい	○勝ちにこだわることの多い現代社会の問題点とは何かについて、考えを深める。 ○「適切な負け方」「意義のある敗北」などのキーワードに着目して、筆者の主張を捉える。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。 参考：A話すこと・聞くこと(2)ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。		
教材名	内田樹「負け方を習得する」	配当時間	2
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)イ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)(イ)・ウ(ア)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	現代社会で生きていく上でどのような考え方を身につければよいか、筆者の主張を文章から読み取ろうとする。	文章のタイトルや文章中のキーワードの意味を捉え、具体例をもとに展開される筆者の主張を読み取ろうとしている。	行動の観察
読む能力	「適切な負け方」などのキーワードの意味を捉え、筆者の主張の要点を理解している。	タイトルやキーワードの意味と、具体例で表されている筆者の主張の要点を理解している。	記述の確認
知識・理解	中学校までに学んできた主な常用漢字が書けている。	中学校までに学んできた主な常用漢字を文脈に応じて正しく書いている。	記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ろうとする。	語句や表現に注意して文脈を捉え、書き手の考えなどを、間違いなく、過不足なく読み取ろうとしている。	行動の観察
読む能力	文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている。	語句や表現に注意して文脈を捉え、書き手の考えなどを、間違いなく、過不足なく読み取っている。	記述の確認
知識・理解	主な常用漢字が書けている。	主な常用漢字を文脈に応じて正しく書いている。	記述の確認

学習のねらい	○自分のことをわかりやすく具体的にスピーチするための姿勢や方法を身につける。 ○他者のスピーチを聞き、これからの自分のスピーチに役立てる。		
言語活動例	A話すこと・聞くこと(2)ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。		
教材名	自分を印象づけるスピーチ 自分を漢字で表すと？	配当時間	2
学習指導要領の指導事項	A話すこと・聞くこと(1)ア・イ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)(イ)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	自分のことをわかりやすく印象的にスピーチしようとする。	自分を表現する印象的な漢字一字について考えようとしている。	行動の観察
話す・聞く能力	どうしたら自分のことをわかりやすく印象的に他人に伝えられるか、自分の考えをもっている。	自分のことを具体例に基づいて印象的にスピーチできている。	行動の観察
知識・理解	スピーチに必要な文章の組み立て、語句の意味、語句の用法について理解している。	スピーチ原稿に必要な文章の組み立てや語句の意味・用法を理解し、適切な原稿を作成している。	記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文
言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	話題について様々な角度から検討して自分の考えをもとうとする。	話す内容に対する認識や態度を自らの内部に形成しようとしている。	行動の観察
話す・聞く能力	話題について様々な角度から検討して自分の考えをもっている。	話す内容に対する認識や態度を自らの内部に形成している。	行動の観察
知識・理解	文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	話すこと・聞くことに必要な文章の組立て、語句の意味、語句の用法について理解している。	記述の確認

学習のねらい	○登場人物である「のっち」と「ベッカ」の二人の関係と心の交流を捉える。 ○登場人物の対比をとおして、人物像を明らかにする。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。		
教材名	谷村志穂「雪ウサギ」	配当時間	3
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ア 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)(イ)・ウ(ア)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	小説の登場人物に関して、その思いや人物像を捉えようとする。	「のっち」と「ベッカ」のそれぞれの思いや人物像を捉えようとしている。	行動の観察
読む能力	登場人物二人の思いや人物像を対比させて文章の中から捉えている。	「のっち」と「ベッカ」の二人の思いや人物像を、会話などの叙述から対比させて捉えている。	記述の確認
知識・理解	文章表現の中の言葉の意味と、その効果を理解している。	「のっち」と「ベッカ」の会話における言葉のニュアンスが、二人の微妙な心のありようを表現していることを理解している。	記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読もうとする。	文学的な文章を、表現の技法や語句の使い方など書き手の工夫を捉えて読もうとしている。	行動の観察
読む能力	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。	文学的な文章を、表現の技法や語句の使い方など書き手の工夫を捉えて読んでいる。	記述の確認
知識・理解	文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	語句の、文脈の中におけるニュアンスなどが、表現上の特別な効果を生み出すことがあることを理解している。	記述の確認

学習のねらい	○主人公である若者の心が、老カメラマンとの交流によってどのように変化したかを読み取る。 ○二人の登場人物を、その言動から対比的に捉え、人物像を明らかにする。 ○映像化された小説に関する本を読み、メディアによる表現の違いについて考えを深める。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。 参考：A話すこと・聞くこと(2) ア状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。		
教材名	原田宗典「一瞬を生きる」 「ブックガイド1」	配当時間	6
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)(イ)・ウ(ア)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	描かれた人物の心情や人物像を理解し、自分なりの考え方をもちようとする。	彼（「若者」）と老カメラマンの心情を理解し、その生き方を理解することをおして、人間の生き方に対して自分の考え方をもちようとしている。	行動の観察
読む能力	彼（「若者」）と老カメラマンの心情やスタジオでの情景を表現に即して読み取り、それぞれの生き方について理解している。	語りの視点がどこにあるかを読み取り、表現に注目しつつ、彼（「若者」）と老カメラマンの心情、生き方、人物像、場面を理解している。	記述の確認
知識・理解	文章の組み立て、語句の意味、用法および表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	段落相互の関係を捉え、文脈上の語句の意味や漢字の使い方などを理解している。	記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。	文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めようとしている。	行動の観察
読む能力	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。	記述の確認
知識・理解	文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	読むことに必要な文の組立て、語句の意味について理解している。	記述の確認

学習のねらい	○石仏の写真を見て、その表情や雰囲気から発言・会話を想像し、考えて発表する。		
言語活動例	A話すこと・聞くこと(2)ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。		
教材名	なんて、言っている？	配当時間	1
学習指導要領の指導事項	A話すこと・聞くこと(1)ア・イ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)(イ)・ウ(ア)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	写真を見て想像力をはたらかせ、その表情の特徴を見いだそうとする。	石仏たちの豊かな表情に関心をもち、その様子を言葉に表現しようとしている。	行動の観察
話す・聞く能力	写真を見て想像した発言・会話の内容を、わかりやすく、効果的に発表している。	発表の内容がわかりやすく、聞き手を納得させるような話し方になっている。	行動の分析
知識・理解	発表に際しての語句の意味、用法などが適切なものになっている。	石仏の発言・会話に「せりふ」にふさわしい言い方が工夫されている。	行動の分析

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	目的や場に応じて、効果的に話そうとする。	何のために、誰に向かって、どのような条件で話すのかを考えようとしている。	行動の観察
話す・聞く能力	目的や場に応じて、効果的に話している。	何のために、誰に向かって、どのような条件で話すのかを考えている。	行動の分析
知識・理解	文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	話すこと・聞くことに必要な文の組立てについて理解している。	行動の分析

学習のねらい	○繰り返し声に出して読み，詩に表現された，旅によせる「われ」の思いを捉える。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字，音声，画像などのメディアによって表現された情報を，課題に応じて読み取り，取捨選択してまとめること。		
教材名	萩原朔太郎「旅上」	配当時間	1
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ア 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)(イ)・ウ(ア)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	詩の中に表現されている「われ」の思いについて考えようとする。	詩を繰り返し声に出して読み，「われ」の思いがどのようなものか，考えようとしている。	行動の観察
読む能力	詩の語句や構成に注目し，「われ」の思いを読み取っている。	「気ままなる旅にいでてみん」と思った理由や，旅の中での思いを読み取っている。	記述の確認
知識・理解	詩に使われている文語の意味と，それが創り出している効果を理解している。	文語の意味だけでなく，それが創り出す詩のリズムや美しさを感じ取っている。	記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読もうとする。	文学的な文章を，文章の種類や類型，書きぶりの違いなどを踏まえて読もうとしている。	行動の観察
読む能力	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。	文学的な文章を，文章の種類や類型，書きぶりの違いなどを踏まえて読んでいる。	記述の確認
知識・理解	国語における言葉の成り立ち，表現の特色及び言語の役割などを理解している。	詩における修辞や，語句の使い方について理解している。	記述の確認

学習のねらい	○限られた言葉でつづられた詩から、「わたし」が抱いている「おもいのたけ」とはどのようなものなのか、考える。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。		
教材名	石津ちひろ「シリウス」	担当時間	1
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ア 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)(イ)・ウ(ア)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	詩に描かれた情景描写と「わたし」の思いとの関係について考えようとする。	「わたし」が、いつ、どこで、何をしているのか、詩の場面について思いをめぐらそうとしている。	行動の観察
読む能力	詩のタイトルや、使われている言葉がもつ意味を的確に捉えている。	「シリウス」という詩のタイトルや、詩の中の中心となる語に込められた意味を読み取っている。	行動の観察
知識・理解	詩の言葉の一つ一つがもつ意味を捉え、それが象徴しているものは何か、理解している。	平仮名で書かれた詩の中で、一つだけ使われている「シリウス」という片仮名語が表している効果について理解している。	行動の観察

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読もうとする。	文学的な文章を、文章の種類や類型、書きぶりの違いなどを踏まえて読もうとしている。	行動の観察
読む能力	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいく。	文学的な文章を、文章の種類や類型、書きぶりの違いなどを踏まえて読んでいく。	行動の観察
知識・理解	国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割、などを理解している。	詩における修辞や、語句の使い方について理解している。	行動の観察

学習のねらい	○詩における比喩や表記上の工夫を捉え、「私」の思いを明らかにする。		
言語活動例	C読むこと(2)エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。		
教材名	石垣りん「シジミ」	配当時間	1
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ア 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)(イ)・ウ(ア)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	描かれた情景を想像し、「私」の心情を捉え、読み味わおうとする。	時間や場所、細部の情景をとらえ、ここでの「私」の心情を理解し、自分の考えをもとうとしている。	行動の観察
読む能力	比喩や表記のもつ表現効果に注目し、描かれた情景や心情を読み味わい、人間や社会に対して、自分の考えをもっている。	詩の表現の特殊性に気づき、その意味するところを捉えて「私」の心情を理解し、社会や人間に対して考えを深めている。	記述の確認
知識・理解	詩の構成、表記の仕方などに着目し、表現上の効果を理解している。	詩の構成を捉え、片仮名書きの意味やその表現効果を理解している。	行動の観察

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読もうとする。	文学的な文章を、文章の種類や類型、書きぶりの違いなどを踏まえて読もうとしている。	行動の観察
読む能力	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいく。	文学的な文章を、文章の種類や類型、書きぶりの違いなどを踏まえて読んでいく。	記述の確認
知識・理解	国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解している。	詩における修辞や、語句の用い方について理解している。	行動の観察

学習のねらい	○自分と隣の友達の紹介文を書くことをとおして、自己を客観的に見つめる視点を見いだす。		
言語活動例	B 書くこと(2)イ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。		
教材名	隣の友達	配当時間	1
学習指導要領の指導事項	B 書くこと(1)イ・ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)(イ)・ウ(ア)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	自分と友達との違いを客観的な視点から捉えようとする。	自分と友達との違いを、具体的な経験を通じて客観的に捉えようとしている。	行動の観察
書く能力	一つの文章の中に、自分と、友達という他人を表現することにより、人に対する見方を深めている。	自分と他人とを客観的に見つめる視点を持ち、短い文章に端的にまとめている。	記述の確認
知識・理解	指定された字数や語の制限の中で、文章を適切に組み立てている。	二百字という短い制限字数内で二つの部分からなる文章を書き、文章を組み立てている。	記述の分析

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書こうとする。	事実や事柄などを、対象に忠実かつ正確に、読み手によく分かるよう具体的に説明しようとしている。	行動の観察
書く能力	対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書いている。	事実や事柄などを、対象に忠実かつ正確に、読み手によく分かるよう具体的に説明している。	記述の確認
知識・理解	文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	書くことに必要な文の組立て、語句の意味、語句の用法、国語の表記の仕方について理解している。	記述の分析

学習のねらい	○魚の生態を明らかにしていく文章を読み、自然と人間との関わりについて考えを広げる。 ○データをもとにして進めていく論理展開を明らかにし、筆者の主張を読み取る。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。 参考：A話すこと・聞くこと(2)イ 調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。		
教材名	松浦啓一「魚は陸から離れられない」	配当時間	5
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)イ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)(イ)・ウ(ア)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	魚の生態や、魚と人間との関わりについて考えようとする。	魚の生態や、魚と人間との関わりについて、文章だけでなく、図版やグラフなどを通じて考えようとしている。	行動の観察
読む能力	筆者の主張を、文章だけでなく、図版やグラフなどの資料の情報で検証しながら理解している。	文章と、魚の生態に関する図版やグラフなどの示す数値とを照合しながら、筆者の主張を読み取っている。	記述の確認
知識・理解	具体例、参照すべき図版やグラフの数値が論理と結びつけて展開される文章の構成を理解している。	具体例や図版、グラフの数値などが筆者の主張の論拠となり、説得力のある文章となっていることを理解している。	記述の確認

参考：『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ろうとする。	語句や表現に注意して文脈を捉え、書き手の考えなどを、間違いなく、過不足なく読み取ろうとしている。	行動の観察
読む能力	文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている。	語句や表現に注意して文脈を捉え、書き手の考えなどを、間違いなく、過不足なく読み取っている。	記述の確認
知識・理解	文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	読むことに必要な文章の組立て、語句の意味について理解している。	記述の確認

学習のねらい	○人間の廃棄物によって死に追いやられる海亀に関する同一の事実を扱った、意見広告と新聞記事を比較し、文章の目的、文体や書き方の違いを捉える。		
言語活動例	C読むこと(2)ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えをもって話し合うこと。 C読むこと(2)エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。		
教材名	海ガメの無念	配当時間	1
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)オ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(7)(イ)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	同一の事実に対して、目的が異なると書き方がどのように違うのか、考えようとする。	同一の事実に対する書き方の違いにより、受け手の印象がどのように違うか、考えようとしている。	行動の観察
読む能力	目的によって、さまざまな文章の書き方があり、それによって読み手に伝わる内容や印象が異なってくることを理解している。	意見広告と新聞記事の文章の違いを比較し、その違いはどのような点にあるのか、理解している。	行動の観察
知識・理解	文章の種類により、文章表現や構成などにどのような違いがあるのか、理解している。	意見広告と新聞記事の文種の違いにより、文末表現、引用の仕方、文章の構成などにどのような違いがあるのか、理解している。	行動の観察

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	幅広く本や文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。	幅広い形態、内容、分野の本や文章を読み、情報を得ようとしている。	行動の観察
読む能力	幅広く本や文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	幅広い形態、内容、分野の本や文章を読み、情報を得ている。	行動の観察
知識・理解	文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	読むことに必要な文の組立て、語句の用法、表記の仕方について理解している。	行動の観察

学習のねらい	○グラフや表などの資料から情報を正確に読み取り，その情報を生かして自分の考えを文章にまとめる。		
言語活動例	B 書くこと(2)イ 出典を明示して文章や図表などを引用し，説明や意見などを書くこと。		
教材名	情報の読み方・扱い方	配当時間	4
学習指導要領の指導事項	B 書くこと(1)イ・ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)(イ)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	グラフから情報を的確に読み取り，それに基づいて自分の意見を述べようとする。	グラフを見て，その情報から読み取れる特徴や問題点について，自分の意見をもち，文章にまとめようとしている。	行動の観察
書く能力	情報の確かさを判断し，その情報が表している特徴を理解し，自分の意見を述べている。	調査方法の妥当性を確かめ，グラフから情報を適切に読み取り，自分の意見を文章にまとめることができている。	記述の分析
知識・理解	グラフの統計数値を分析する方法について理解し，それを文章にしている的確に人に伝える方法を身につけている。	グラフから特徴的な傾向をつかみ，それを分析して文章にするための語句の使い方などを身につけている。	記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめようとする。	自分の考えの妥当性を裏付ける，客観性や信頼性の高い資料を用い，自らの論が成り立つ根拠を示そうとしている。	行動の観察
書く能力	論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめている。	自分の考えの妥当性を裏付ける，客観性や信頼性の高い資料を用い，自らの論が成り立つ根拠を示している。	記述の分析
知識・理解	国語における言葉の成り立ち，表現の特色及び言語の役割などを理解している。	書くことに必要な，語句の構造的な仕組みについて理解している。	記述の確認

学習のねらい	○一人の人間と戦争との関わりをもとに、人間の生き方について考えを深める。 ○文章の構成に着目してできごとを捉え、筆者の思いを読み取る。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。 参考：A話すこと・聞くこと(2)イ 調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。		
教材名	黒柳徹子「ツゴイネルワイゼン」	配当時間	3
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ア 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)(イ)・ウ(ア)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	状況と人物との関わりについて注意を払いながら文章を読もうとする。	豊かな想像力で、描かれた場面を思い描き、それぞれの場面における人物の思いを文章から読み取ろうとしている。	行動の観察
読む能力	一つ一つのエピソードが語っていることの意味を理解している。	それぞれのエピソードを意味のまとまりと考え、その意味を記述をふまえて読み取っている。	行動の確認
知識・理解	文章の組み立てにおいてエピソードが挿入されているような場合の文章構成や時間の把握ができています。	父親の思い出、自分の思い出、父の知り合いの人が語る挿話など、現在と過去の錯綜する事実を時間軸にそって捉えている。	行動の観察

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読もうとする。	文学的な文章を、表現の技法や語句の使い方など書き手の工夫を捉えて読もうとしている。	行動の観察
読む能力	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。	文学的な文章を、表現の技法や語句の使い方など書き手の工夫を捉えて読んでいる。	行動の確認
知識・理解	文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	語句の、文脈の中におけるニュアンスなどが、表現上の特別な効果を生み出すことがあることを理解している。	行動の観察

学習のねらい	○「自分にしか書けないこと」を発見し、その意味を捉えて、他者に伝える。 ○書き上げた自分の文章を客観的に読み直すとともに、他者の文章表現から学び合う。		
言語活動例	B書くこと(2)ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。		
教材名	思いを述べる 忘れられないできごと	配当時間	7
学習指導要領の指導事項	B書くこと(1)ア・エ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(7)(イ)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	自分の体験を想起し、その意義について考えようとする。 文章を読み合い、文章表現について積極的に意見交換をしようとする。	自分の体験などを思い出して、メモに書き出そうとしている。 読むことに集中し、コメントを書こうとしている。	記述の確認 記述の確認
書く能力	相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書いている。 適切な表現の仕方を考えて書いている。 優れた表現に接して、その条件を考え、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	心に残るできごとを取り上げている。 できごとの様子がよく伝わるように書いている。 他者の文章を読み、優れた点を学び取っている。	記述の分析 記述の分析 記述の分析
知識・理解	文章表現の特色及び言語の役割などを理解している。 文章の組立てを工夫するとともに、適切な語句を選択して使っている。	「伝達」「認識」「思考」「創造」という言語の四つの機能を理解している。 「書き出し」と「結び」とが対応した論旨の一貫性のある文章を書いている。	記述の確認 記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	相手や目的に応じて題材を選ぼうとする。	書く相手や、書く目的を実現するのにふさわしい文章の形態や文体、語句などを考え、適切に選ぼうとしている。	記述の確認
書く能力	相手や目的に応じて題材を選んでいる。	書く相手や、書く目的を実現するのにふさわしい文章の形態や文体、語句などを考え、適切に選んでいる。	記述の分析
知識・理解	国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解している。	書くことに必要な、文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	記述の確認

学習のねらい	○母の入院にまつわる少年の思いの変化を読み深める。 ○会話文を手がかりに、場面ごとの人物の心情を捉える。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。		
教材名	重松清「バスに乗って」	配当時間	5
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)(イ)・ウ(ア)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	登場人物たちの心情を文章に即して考えようとする。	登場人物たちのせりふに込められた思いについて考えようとしている。	行動の確認
読む能力	できごととそれに伴う登場人物の心情の変化を表現に即して読み味わっている。	主人公の少年と、バスの運転手の河野さんとの会話を中心に主人公の心情の変化を読み味わっている。	記述の点検
知識・理解	登場人物の心理に関わる地の文や会話の言葉のニュアンスが読者の心を捉える表現上の効果をあげていることに気づいている。	地の文に描かれた登場人物達の行動や表情の描写、そして会話文などのニュアンスが生み出している効果に気づいている。	記述の点検

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。	文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしようとしている。	行動の確認
読む能力	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。	記述の点検
知識・理解	文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	語句の、文脈の中におけるニュアンスなどが、表現上の特別な効果を生み出すことがあることを理解している。	記述の点検

学習のねらい	○社会的状況と人間の生き方の関係について、考えを深める。 ○場面の変化に着目し、主人公像の変化を捉える。 ○幅広い読書を通じ、社会と人間のあり方について考える。		
言語活動例	C読むこと(2)エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。		
教材名	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」「ブックガイド2」	配当時間	3
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)オ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(7)(イ)・ウ(7)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	幅広い読書を通じ、社会と人間のあり方について考えようとする。	幅広い読書を通じ、社会的状況の中での人間の行動や考え方について考えようとしている。	行動の確認
読む能力	文章の読解を通じて社会や人間の生き方について考えを深め、それを読書によって広げ、豊かなものにしていく。	この文章で考えを深めた社会と人間のあり方について、他の本を読むことにより、さらに深化させようとしている。	記述の分析
知識・理解	小説の構造や内容の違いに気づき、多様な文章の形態があることを理解している。	女工の「手紙」を中心とした文章の構成や、描かれた内容の特徴を捉え、多彩な文学的表現があることを理解している。	行動の分析

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	幅広く本や文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。	様々な本や文章を読み、人間、社会、自然などについて、自分なりの考えを形成しようとしている。	行動の確認
読む能力	幅広く本や文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	様々な本や文章を読み、人間、社会、自然などについて、自分なりの考えを形成している。	記述の分析
知識・理解	文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	行動の分析

学習のねらい	○興味をもった本の内容やその魅力をレジュメを使いながら口頭で発表する。 ○他者の発表を聞き取り、適切に記録を取る。		
言語活動例	A話すこと・聞くこと(2)イ 調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。		
教材名	この本を読んでみて！	配当時間	4
学習指導要領の指導事項	A話すこと・聞くこと(1)ウ・エ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(7)(イ)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	内容が伝わるように工夫して発表しようとする。 発表を聞き取り、記録を取ろうとする。	レジュメに基づき、適切に聞き取れるよう発表しようとしている。 発表を聞きながら、教科書を参考に記録用紙を作成しようとしている。	行動の確認 記述の確認
話す・聞く能力	内容が伝わるように工夫して発表している。 発表を聞き取り、記録を取っている。	レジュメに基づき、適切に聞き取れるよう発表している。 発表を聞きながら、教科書を参考に記録用紙を作成している。	行動の分析
知識・理解	他者に正確な情報を伝達するための言語の役割と、話し言葉の特徴について理解している。	情報を正確に伝達するための話し言葉における言葉の使い方や話し方について理解している。	行動の確認 記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。	相手の話の内容についての評価を通して得た、優れた洞察や思考などを、自分自身の人間、社会、自然などに対する思いや考えを見直したり、深めたり、広げたりする契機としている。	行動の確認 記述の確認
話す・聞く能力	話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	相手の話の内容についての評価を通して得た、優れた洞察や思考などを、自分自身の人間、社会、自然などに対する思いや考えを見直したり、深めたり、広げたりする契機としている。	行動の分析
知識・理解	国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解している。	話すこと・聞くことに必要な、語彙の構造的な仕組みについて理解している。	行動の確認 記述の確認

学習のねらい	○繰り返し読んでリズムを味わい、短歌に表現された情景と心情とを読み取る。 ○繰り返し読んでリズムを味わい、選び抜かれた言葉を手がかりに俳句に描かれた世界を豊かに想像する。		
言語活動例	C読むこと(2)エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。 参考：B書くこと(2)ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。		
教材名	「遠い片手（短歌九首）」 穂村弘「麦わら帽子のへこみ」 「ブックガイド3」 「春のオルガン（俳句十二句）」	配当時間	2
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)オ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)(イ)・ウ(ア)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	繰り返し読んでそれぞれの短歌や俳句のリズムを読み比べ、その面白さを理解しようとする。	短歌や俳句を読み比べ、リズムを味わい、それぞれの短歌や俳句の違いやおもしろさを感じ取ろうとしている。	行動の観察
読む能力	短歌や俳句に表されている情景や心情を理解し、さらに解説文や関連書籍を読んで定型詩に関する興味を広げ、理解を深めている。	それぞれの短歌や俳句がどのような情景をよみ、どういう心情を表しているのか、解説文や書籍などをふまえて、理解を深めている。	記述の分析
知識・理解	短歌や俳句の修辞や、語句の用い方について理解している。	短歌や俳句における語句の効果的な使い方や、修辞の技巧がもたらす効果について理解している。	行動の確認 記述の分析

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	幅広く本や文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。	様々な本や文章の書き手の意図を捉え、共感したり、疑問に思ったり、思索したりしようとしている。	行動の観察
読む能力	幅広く本や文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	様々な本や文章の書き手の意図を捉え、共感したり、疑問に思ったり、思索したりしている。	記述の分析
知識・理解	国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割、などを理解している。	国語の表記、語彙、文法の特色について理解している。	行動の確認 記述の分析

学習のねらい	○小説に使われている比喩表現を題材に、効果的な比喩の使い方や文章表現の仕方を身につける。		
言語活動例	B 書くこと(2)ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。		
教材名	原作と勝負！	担当時間	1
学習指導要領の指導事項	B 書くこと(1)ウ・エ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(7)(イ)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	小説の一節にならって自分の思いを表現しようとする。	小説の文章の面白さを捉え、それにならって自分の思いを表現しようとしている。	行動の観察
書く能力	課題として取り上げられている文章の条件を把握し、適切な表現方法を考えて書いている。	指定された条件にあった効果的な比喩が考えられ、適切な文章表現がなされている。	記述の分析
知識・理解	比喩による表現方法の多彩さを理解している。	文脈の中での正しい比喩の使い方について理解している。	記述の分析

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書こうとする。	描写するとき、比喩をはじめとした表現の技法を適切に用いて書こうとしている。	行動の観察
書く能力	対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書いている。	描写するとき、比喩をはじめとした表現の技法を適切に用いて書いている。	記述の分析
知識・理解	国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解している。	書くことに必要な、国語の、語彙、文法の特徴について理解している。	記述の分析

学習のねらい	○二つの水の姿を捉え，東西の文化の違いについて考えを深める。 ○対比的表現に着目して，筆者の考えを読み取る。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字，音声，画像などのメディアによって表現された情報を，課題に応じて読み取り，取捨選択してまとめること。		
教材名	山崎正和「水の東西」	配当時間	6
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)エ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(7)(イ)・ウ(7)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章を読んで，東西の文化の違いについて考えようとする。	日本と西洋の水の比較から，東と西の文化の違いについて考えを深めようとしている。	行動の観察
読む能力	対比表現に着目し，筆者の主張を的確に読み取っている。	筆者の主張する，鹿おどしと噴水の比較から捉えた，日本と西洋の水に対する考え方の違いについて，的確に理解している。	記述の分析
知識・理解	二項対立によって展開される評論の基本的な形式について理解している。	東西で異なる水に関する具体例と論理によって展開される，二項対立による評論の基本的形式を理解している。	記述の分析

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の構成や展開を確かめ，書き手の意図を捉えようとする。	文章の組立てや骨組みを的確に捉えようとしている。	行動の観察
読む能力	文章の構成や展開を確かめ，書き手の意図を捉えている。	文章の組立てや骨組みを的確に捉えている。	記述の分析
知識・理解	文や文章の組立て，語句の意味，用法及び表記の仕方などを理解し，語彙を豊かにしている。	読むことに必要な文章の組立てについて理解している。	記述の分析

学習のねらい	○日常生活の中の「問題解決の方法」について、考えを深める。 ○文章の構成を明らかにするとともに、繰り返し出てくるキーワードに着目して、要旨を捉える。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。		
教材名	堀井秀之「問題解決の心理学」	配当時間	3
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)イ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)(イ)・ウ(ア)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章のキーワードを捉え、自分の言葉に直して説明しようとする。	文章の主張の中心となるキーワードを捉え、その意味を自分の言葉で説明しようとしている。	行動の観察
読む能力	評論に使われているキーワードや表現を自分なりに捉え、わかりやすく説明している。	「問題解決のメカニズム」に関するキーワードや表現を、自分の言葉でわかりやすく表現している。	記述の分析
知識・理解	文章の中の重要な語句の意味や、全体の中でのその役割について理解している。	文章中の重要語句の意味を理解し、それが筆者の主張とどのように結びついているのかを理解している。	記述の分析

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文
言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の内容を必要に応じて詳述しようとする。	目的に応じて、分かりやすく説明しようとしている。	行動の観察
読む能力	文章の内容を必要に応じて詳述している。	目的に応じて、分かりやすく説明している。	記述の分析
知識・理解	国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割、などを理解している。	国語の文字、表記、語句、語彙の特色について理解している。	記述の分析

学習のねらい	○お互いの意見に耳を傾け合って、よりよい考えを導き出す話し合いの大切さを理解する。		
言語活動例	A話すこと・聞くこと(2)ウ 反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話し合いや討論などを行うこと。		
教材名	討論ゲームを楽しもう	配当時間	4
学習指導要領の指導事項	A話すこと・聞くこと(1)ウ・エ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(7)(1)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	積極的に討論に参加する姿勢を身につけようとする。	相手の話の内容を適切に受け止め、筋道を立てて、討論の場にふさわし言葉遣いで自分の意見を述べようとしている。	行動の観察
話す・聞く能力	話し合いの中で適切に話したり、聞いたりする力を身につけている。	相手の話の内容を適切に受け止め、筋道を立てて、討論の場にふさわし言葉遣いで自分の意見を述べている。	行動の観察
知識・理解	討論の際の、言語によるコミュニケーションが、集団の中でもつ必要性について理解している。	正しい討論の方法を身につけることが自分や集団のあり方をよりよく調整し、高めていくことを理解している。	行動の分析

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文
言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重しようとする。	相手の考えを踏まえて自分の考えを説明したり、考えを相対化したりして話し合おうとしている。	行動の観察
話す・聞く能力	課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重している。	相手の考えを踏まえて自分の考えを説明したり、考えを相対化したりして話し合っている。	行動の観察
知識・理解	国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解している。	話すこと・聞くことにおける言語運用が、個人や社会の中で果たしている役割について理解している。	行動の分析

学習のねらい	○現代社会における働くこと、生きることについて考えを深める。 ○対比的に語られている文章構成を把握し、筆者の考え方を明らかにする。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。 参考：B書くこと(2)イ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。		
教材名	塩野米松「働く喜び 技もつ体で」	配当時間	3
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)イ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(7)(イ)・ウ(7)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	働くことの意味について自分なりの考えをもち、現代社会における働くこと、生きることの問題について考えようとする。	「働く喜び」や「技もつ体」の意味について感想をもち、現代社会での働くことや生きることに関して自分の考えをもとうとしている。	行動の観察
読む能力	かつての働く情景、そこでの思考や心情を読み取り、対比的に述べられる現代社会の問題を理解し、要点をまとめている。	働く現場での具体例をとおして筆者の述べる、働くことの意味、生きることの意味を把握し、現代社会での問題点を理解し、文章にまとめている。	記述の確認
知識・理解	語句の意味、用法を正しく理解し、使いこなしている。	注意すべき語句の意味を確認し、対義語、類義語について理解し、短文の中で使用することができている。	記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の内容を必要に応じて詳述しようとする。	目的に応じて、文章全体をまとめようとしている。	行動の観察
読む能力	文章の内容を必要に応じて詳述している。	目的に応じて、文章全体をまとめている。	記述の確認
知識・理解	文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	読むことに必要な語句の意味について理解している。	記述の確認

学習のねらい	○いろいろな存在に対する人間の「感謝」の思いについて、考えを深める。 ○示された具体例と、自分の経験とをつなぎながら、筆者の主張を捉える。 ○読書を通じて人の生き方・考え方について考えを深める。		
言語活動例	C読むこと(2)エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。		
教材名	池田晶子「あたりまえなことにありがとう」 「ブックガイド4」	配当時間	3
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)オ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(7)(イ)・ウ(7)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	筆者の経験を自分の経験と結びつけ、考えようとする。	筆者の経験が書かれている箇所を確かめ、自分にも同じような経験がないか、確かめようとしている。	行動の確認
読む能力	筆者の主張の中心を自分の経験と結びつけて捉え、さらに関連する本を読んで考えを深めている。	筆者の「生きること」「存在すること」に対する思いを捉え、さらに読書によって考えを深めている。	記述の確認
知識・理解	評論の中心となる言葉が文章の中でどのような役割を担っているか、理解している。	「ありがとう」という言葉を中心に、筆者がどのように考えを深めていっているのか、理解している。	記述の分析

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	幅広く本や文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。	様々な本や文章の書き手の意図を捉え、共感したり、疑問に思ったり、思索したりしようとしている。	行動の確認
読む能力	幅広く本や文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	様々な本や文章の書き手の意図を捉え、共感したり、疑問に思ったり、思索したりしている。	記述の確認
知識・理解	国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解している。	国語の語句、文法の特色について理解している。	記述の分析

学習のねらい	○マンガのせりふや絵から情報を読み取り，その情報を論理的に詳述する。		
言語活動例	B 書くこと(2)ア 情景や心情の描写を取り入れて，詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。		
教材名	マンガの楽しみ	配当時間	1
学習指導要領の指導事項	B 書くこと(1)イ・ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(7)(1)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	4 コママンガの限られた情報から，想像力をはたらかせ，登場人物の状況を考えようとする。	マンガの絵から登場人物が置かれている状況や性格などを想像し，考えようとしている。	記述の確認
書く能力	4 コママンガの限られた情報から，主人公のおかれている状況や性格などを根拠に基づいて読み取り，文章にしている。	4 コママンガの限られた情報から想像し，登場人物のおかれている状況や性格・思いを根拠に基づいて読み取り，適切に捉えて文章を書いている。	記述の分析
知識・理解	課題として提示されている条件の文章を的確に把握し，適切な文体と言葉遣いで文を書いている。	このマンガにふさわしいせりふの文体や，適切な文体と言葉遣いで説明の文章を書いている。	記述の分析

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文
言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	論理の構成や展開を工夫しようとする。	自分の考えが，確実な根拠に支えられ，前後矛盾することなく論理的に展開している文章を書こうとしている。	記述の確認
書く能力	論理の構成や展開を工夫している。	自分の考えが，確実な根拠に支えられ，前後矛盾することなく論理的に展開している文章を書いている。	記述の分析
知識・理解	国語における言葉の成り立ち，表現の特色及び言語の役割などを理解している。	書くことに必要な，文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	記述の分析

学習のねらい	○追いつめられた状況の中での、人間の考え方や心の動きについて考える。 ○場面の推移や比喻表現に注意しながら、主人公の心理の移り変わりを捉える。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取舍選択してまとめること。 参考：B書くこと(2)ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。		
教材名	芥川龍之介「羅生門」	配当時間	6
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)エ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(7)(イ)・ウ(7)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	場面の推移に従い、登場人物の心情や行動がどのような表現で描かれているか、理解しようとする。	下人のおかれている状況、老婆の考え方を捉え、二人の行動や心情の変化が、場面の推移に従ってどのような表現で描かれているかを理解しようとしている。	行動の観察
読む能力	描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み、場面の推移や人物の心理の変化を把握するとともに、ここに描かれている人物や状況が意味するものは何か、理解している。	比喻表現や語りの視点に注意して、作品世界の状況を把握し、人物の考え方とその変化、そしてそれが意味するものが何であるかを理解している。	記述の確認
知識・理解	文章の構成を捉え、比喻などの表現技巧を文脈の中で理解している。	文章構成における場所や時間の設定、多用されている動物の比喻などの意味するものを的確に捉えている。	行動の観察

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価しようとする。	文章の構成や展開を確かめ、文章の内容にふさわしい文体や語句、表現の技法が用いられているかどうかを考察しようとしている。	行動の観察
読む能力	文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価している。	文章の構成や展開を確かめ、文章の内容にふさわしい文体や語句、表現の技法が用いられているかどうかを考察している。	記述の確認
知識・理解	文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	読むことに必要な文章の組立て、語句の意味、語句の用法、表記の仕方について理解している。	行動の観察

学習のねらい	○逆説（パラドックス）を説明することをとおして「論理的に筋道を立てて説明する」ための方法について考える。		
言語活動例	A話すこと・聞くこと(2)ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり，資料に基づいて説明したりすること。		
教材名	うそか、本当か	配当時間	1
学習指導要領の指導事項	A話すこと・聞くこと(1)ア・イ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(7)(1)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	逆説の論理の面白さに気づき，それをわかりやすく説明する方法を考えようとする。	逆説の論理にみる言葉の面白さを理解し，それをどのように説明すればよいか，さまざまな視点から考えようとしている。	行動の観察
話す・聞く能力	逆説の論理を理解し，他人に対して論理的に説明する方法を考えている。	逆説の論理を理解し，それを他者にもわかるように説明することができている。	行動の分析
知識・理解	自分の考えを他人に伝えるための文の組み立て方を理解している。	自分の考え方を筋道立てて説明することができている。	行動の分析

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文
言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	話題について様々な角度から検討して自分の考えをもとうとする。	話す内容に対しての認識や態度を自らの内部に形成しようとしている。	行動の観察
話す・聞く能力	話題について様々な角度から検討して自分の考えをもっている。	話す内容に対しての認識や態度を自らの内部に形成している。	行動の分析
知識・理解	文や文章の組立て，語句の意味，用法及び表記の仕方などを理解し，語彙を豊かにしている。	話す・聞くことに必要な文章の組立て，語句の意味，語句の用法，国語の表記の仕方について理解している。	行動の分析

学習のねらい	○「届く言葉」と「届かない言葉」の違いについて考えを深める。 ○具体例の内容と、それを示す意図を捉え、筆者の主張を明らかにする。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。 参考：B書くこと(2)ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。		
教材名	鷲田清一「届く言葉、届かない言葉」	配当時間	3
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ア 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(7)(イ)・ウ(7)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	心に届く言葉とはどのようなものかについて考えようとする。	心に届く言葉とはどのようなものかについて考えようとしている。	行動の観察
読む能力	事例と考えとを区別しながら、筆者の考えの中心を捉えている。	事例と考えとを的確に区別でき、筆者の考えの中心がどこに書かれているか、捉えられている。	記述の確認
知識・理解	文章の構成における段落と段落との関係について理解している。	主に事例を述べている段落と、考えを述べている段落とを判別することができる。	記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読もうとする。	論理的な文章を、表現の技法や語句の使い方など書き手の工夫を捉えて読もうとしている。	行動の観察
読む能力	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。	論理的な文章を、表現の技法や語句の使い方など書き手の工夫を捉えて読んでいる。	記述の確認
知識・理解	文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	読むことに必要な文の組立て、語句の意味について理解している。	記述の確認

学習のねらい	○身のまわりや社会に目を向け、気づいたことに対する意見を文章にまとめる。 ○自分の意見を事実や体験に基づいて客観的に述べる。		
言語活動例	B書くこと(2)イ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。 B書くこと(2)ウ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。		
教材名	新聞に投書してみよう	配当時間	6
学習指導要領の指導事項	B書くこと(1)ア・エ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(7)(イ)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	身のまわりや社会に目を向け、気づいたことに対する意見を積極的に文章にまとめる態度を身につけようとする。	身のまわりや社会に目を向け、そこから問題を発見しようとしている。	行動の観察
書く能力	自分の主張を他人に伝えるため、題名のつけ方や文章の組み立てに留意して、わかりやすい文章を書いている。	何を書くのか、主張を明確にし、また自分の立場を明確に示して文章を組み立て、読み手にわかりやすい文を書く力を身につけている。	記述の分析
知識・理解	自分の意見とその意見を裏付ける事実や体験が述べられている。	不特定多数の読み手を意識して、自分の意見をその根拠となった事実や体験をまじえながら文章にまとめている。	記述の分析

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文
言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てようとする。	自分や他の生徒が書いた文章を評価し、直すべき点を明らかにしようとしている。	行動の観察
書く能力	優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立っている。	自分や他の生徒が書いた文章を評価し、直すべき点を明らかにしている。	記述の分析
知識・理解	文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	書くことに必要な文の組立て、語句の意味、語句の用法、国語の表記の仕方について理解している。	記述の分析

学習のねらい	○繰り返し音読することで、古典文学の言葉の響きを感じ取り、その美しさを味わう。		
言語活動例	C読むこと(2)エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。		
教材名	古典の響き	担当時間	1
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ア 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(イ)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	音読することで、古典文学の言葉の響きを味わおうとする。	繰り返し音読することで、古典文学の響きを感じ取り、その美しさを味わおうとしている。	行動の観察
読む能力	それぞれの作品を表現の特色に注意して読んでいる。	それぞれの作品の種類や類型、文体の違いなどをふまえて読んでいる。	行動の確認
知識・理解	歴史的仮名遣いが現代語とは違うことを理解している。	歴史的仮名遣いの表記と読みの違いについて理解している。	行動の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読もうとする。	文学的な文章を、文章の種類や類型、書きぶりの違いなどを踏まえて読もうとしている。	行動の観察
読む能力	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。	文学的な文章を、文章の種類や類型、書きぶりの違いなどを踏まえて読んでいる。	行動の確認
知識・理解	文語のきまり，訓読のきまりなどを理解している。	古文を読むことに役立つ，文語のきまりを身に付けている。	行動の確認

学習のねらい	○古語が現代でも使われている例や、「更級日記」の例から、古文への関心を深める。 ○歴史的仮名遣いに注意しながら「児のそら寝」を音読し、児と僧たちの思いを読み取る。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取舍選択してまとめること。		
教材名	「古文の世界へ」 「児のそら寝」(宇治拾遺物語)	配当時間	2
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(イ)・イ(ア)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	音読しながら、説話の面白さを味わおうとする。	音読しながら、説話に登場する「児」と「僧たち」の心理の面白さを理解しようとしている。	行動の観察
読む能力	登場人物の心情や行動に注意して、場面を理解することができる。	場面ごとの登場人物の心情や行動の意味を捉え、作品のもつ面白さを理解している。	行動の確認
知識・理解	歴史的仮名遣いや古語というものについて理解している。	歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの音韻・表記の違いなどについて理解している。	記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わおうとする。	文章に描かれている情景を，文や文章，語句などから離れないようにして読み，人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。	行動の観察
読む能力	文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わっている。	文章に描かれている情景を，文や文章，語句などから離れないようにして読み，人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。	行動の確認
知識・理解	文語のきまり，訓読のきまりなどを理解している。	古文を読むことに役立つ，文語のきまりを身に付けている。	記述の確認

学習のねらい	○小犬と馬の行動と、それに対する主人の行動を比較して捉える。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。		
教材名	馬と犬とのこと（伊曾保物語）	配当時間	2
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(7)(イ)・イ(7)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	主人公である「馬」のふるまいとその思いの変化を捉えようとする。	主人公である「馬」のふるまいと、その思いの面白さがどこにあるのか、理解しようとしている。	行動の確認
読む能力	登場する三者の関係を捉え、説話に表されている面白さを理解している。	「主人」と「馬」のやりとりと、思いのすれ違いの面白さを捉えている。	行動の確認
知識・理解	現在も日本人に親しまれている「伊曾保物語」の日本文学史上の意味について理解している。	初めて日本語に翻訳されたヨーロッパ文学である「伊曾保物語」の説明文を読み、我が国の文学と外国文学との関係について理解している。	行動の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。	文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めようとしている。	行動の確認
読む能力	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。	行動の確認
知識・理解	言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化について理解している。	我が国の言語文化は、中国をはじめとする外国の文化の受容とその変容とを繰り返しつつ築かれてきたことに気付いている。	行動の確認

学習のねらい	○できごとの原因や経過とその結果をたどりながら、周囲の人々の反応と主人公像を読み取る。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。		
教材名	公世の二位のせうとに (徒然草)	配当時間	2
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)エ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(イ)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	人々が良覚僧正の行動や性格を、どのように見ていたのか捉えようとする。	人々が良覚僧正のことをどのように思っていたのか考え、意見を出そうとしている。	行動の観察
読む能力	主人公が、それぞれの呼ばれ方になった原因を読み取っている。	良覚僧正が、それぞれの呼ばれ方になった原因を読み取り、的確にまとめている。	記述の分析
知識・理解	我が国の中世文学の代表作である「徒然草」の文学史的意義を理解している。	「徒然草」の文学的意義と、その中心的な思想や時代背景について理解している。	記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文
言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図を捉えようとする。	文章の組立てや骨組みを的確に捉えようとしている。	行動の観察
読む能力	文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図を捉えている。	文章の組立てや骨組みを的確に捉えている。	記述の分析
知識・理解	言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化について理解しようとする。	伝統的な言語文化へ多様な方面から迫り、作品を集合的に捉えた時代全体の特質に気付いている。	記述の確認

学習のねらい	○時間の経過に従って展開を読み取り、まとめの言葉にこめられた筆者の意図を明らかにする。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。 参考：A話すこと・聞くこと(2)ウ 反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話合いや討論などを行うこと。		
教材名	亀山殿の御池に（徒然草）	配当時間	2
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)エ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(7)(イ)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	話の展開と人々の思いがどのようなものであったか捉えようとする。	展開を時間の経過に従って捉える中で、話の面白さがどこにあるのか、考えようとしている。	行動の観察
読む能力	文章の構成、展開と、筆者の主張を読み取ることができている。	文章の構成や展開を把握し、まとめの言葉にこめられた筆者の意図を理解できている。	行動の確認
知識・理解	この文章の特徴と、そこに表れている筆者の個性を捉えている。	「公世の二位のせうとに」とに共通する、文体や内容の特徴を捉えることができている。	行動の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図を捉えようとする。	文章に表れている書き手の思考の流れに目を向け、なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかなどに迫ろうとしている。	行動の観察
読む能力	文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図を捉えている。	文章に表れている書き手の思考の流れに目を向け、なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかなどに迫っている。	行動の確認
知識・理解	言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化について理解している。	伝統的な言語文化へ多様な方面から迫り、作品一つ一つに表れている個性と価値に気付いている。	行動の確認

学習のねらい	○会話に注意して、場面の様子と登場人物や筆者の思いを捉える。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。		
教材名	高名の木登り（徒然草）	担当時間	2
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)エ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(7)(イ)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	話の内容を自分の経験と結びつけて理解しようとする。	「木登り」と「鞠」の共通点について自分の経験と結びつけて考え、意見をだそうとしている。	行動の観察
読む能力	物語にこめられた教訓の意味を読み取っている。	登場人物の言葉の意味を理解し、主題へと結びつけていくその意図を読み取っている。	記述の確認
知識・理解	重要古語の意味を理解している。	重要古語の意味を整理し、理解している。	記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図を捉えようとする。	文章の組立てや骨組みを的確に捉えようとしている。	行動の観察
読む能力	文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図を捉えている。	文章の組立てや骨組みを的確に捉えている。	記述の確認
知識・理解	文語のきまり、訓読のきまりなどを理解している。	古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	記述の確認

学習のねらい	○繰り返される言葉に着目して、筆者のものの感じ方を捉え、味わう。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。		
教材名	五月ばかりなどに (枕草子)	配当時間	2
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ア・イ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(イ)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	音読しながら、文章の特徴やキーワードを発見しようとする。	音読しながら、「をかし」が文末表現として繰り返されていること、また、視覚・触覚・嗅覚で捉えた「をかし」の感覚であることなどの文章の特徴を捉えようとしている。	行動の観察 記述の確認
読む能力	情景を思い浮かべながら、場面や人物の動きを捉え、筆者が「をかし」と捉えた「美」の瞬間を、自分の感覚と照らし合わせて考えている。	描かれているのが、牛車に乗っての外出であり、筆者がその中から捉えた瞬間であることを理解し、その感動がどのようなものであったのかを自分の感覚と照らし合わせて理解している。	行動の観察 記述の確認
知識・理解	基本的な助動詞の役割や意味を理解している。 「枕草子」の文学史的意義を理解している。	助動詞が文章に表情を与える役割をもつことを理解している。 「枕草子」の文学史的意義と、背景にある貴族社会のありようについて理解している。	行動の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ろうとする。	語句や表現に注意して文脈を捉え、書き手の考えなどを、間違いなく、過不足なく読み取ろうとしている。	行動の観察 記述の確認
読む能力	文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている。	語句や表現に注意して文脈を捉え、書き手の考えなどを、間違いなく、過不足なく読み取っている。	行動の観察 記述の確認
知識・理解	文語のきまり，訓読のきまりなどを理解している。	古文を読むことに役立つ，文語のきまりを身に付けている。	行動の確認

学習のねらい	○感情を示す微妙な言葉遣いに注意して、描かれている内容を想像する。		
言語活動例	C読むこと(2)ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。		
教材名	にくきもの（枕草子）	配当時間	2
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ア・イ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(イ)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	一つ一つの叙述を追いながら、微妙な言いまわしを感じ取り、文章の特徴を捉えようとする。	筆者の個性的なものの見方の特徴を、叙述の中から、自分の経験と照らし合わせながら捉えようとしている。	行動の観察
読む能力	助詞や助動詞の微妙な意味に注意しながら、筆者が表現している思いを感じ取っている。	巧みで微妙な文体による表現が、筆者の思いや人間性を生き生きと映し出していることに気づいている。	行動の確認
知識・理解	表現技法が文章に与えている効果について理解している。	冒頭の「にくきもの」の体言止めや、繰り返されている文末の連体形などがあげている表現上の効果を捉えている。	行動の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ろうとする。	語句や表現に注意して文脈を捉え、書き手の考えなどを、間違いなく、過不足なく読み取ろうとしている。	行動の観察
読む能力	文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている。	語句や表現に注意して文脈を捉え、書き手の考えなどを、間違いなく、過不足なく読み取っている。	行動の確認
知識・理解	文語のきまり，訓読のきまりなどを理解している。	古文を読むことに役立つ，文語のきまりを身に付けている。	行動の確認

学習のねらい	○物語の展開に注意して，登場人物の状況や主人公の気持ちを読み取る。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字，音声，画像などのメディアによって表現された情報を，課題に応じて読み取り，取舍選択してまとめること。		
教材名	芥川（伊勢物語）	配当時間	3
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(7)(イ)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	登場人物の行動と心情を捉えようとする。	物語の場面を想像し，登場人物の思いを捉えようとしている。	行動の観察
読む能力	登場人物の具体的な動作などから心情の変化を読み取り，最後の和歌にこめられた思いを理解している。	物語に描かれている時間，場所，状況を的確に把握し，動作や行動から登場人物それぞれの思いを捉え，主人公の思いを集約している和歌の意味を理解している。	行動の確認
知識・理解	「係り結び」について基本的な理解ができています。	「係り結び」が使用されている部分が，なぜ強調されているのかを理解している。	行動の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わおうとする。	人物，情景，心情などを，どのように書き手が描いているのかを捉え，言葉の美しさや深さに気付こうとしている。	行動の観察
読む能力	文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わっている。	人物，情景，心情などを，どのように書き手が描いているのかを捉え，言葉の美しさや深さに気付いている。	行動の確認
知識・理解	文語のきまり，訓読のきまりなどを理解している。	古文を読むことに役立つ，文語のきまりを身に付けている。	行動の確認

学習のねらい	○和歌に注意しながら、場面の展開や登場人物の気持ちを捉える。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。		
教材名	筒井筒（伊勢物語）	配当時間	2
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(7)(イ)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の中に表現されている当時の人々の生活や文化を知ろうとする。	当時の人々の、男女関係や結婚、成人などの習俗のありかたを知ろうとしている。	行動の確認
読む能力	登場人物の心情を読み取り、和歌との関係を捉えている。	三首の和歌に、それぞれ誰のどのような気持ちがこめられているのか読み取っている。	行動の分析
知識・理解	歌物語というジャンルと、使われている和歌の修辞について理解している。	歌物語における和歌の重要性と、使われている和歌の修辞があげている効果を理解している。	記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文
言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。	文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めようとしている。	行動の確認
読む能力	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。	行動の分析
知識・理解	国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解している。	歌物語における和歌の修辞や、語句の用い方について理解している。	記述の確認

学習のねらい	○「筒井筒」に関する現代の文章を読み、自分の解釈と比較しながら、古文に対する理解を深める。		
言語活動例	C読むこと(2)エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。		
教材名	「筒井筒」について（俵万智『恋する伊勢物語』より）	配当時間	1
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)エ・オ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(7)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	この文章と自分の解釈とを比べ、自分の解釈がどのように深まったのか考えようとする。	筆者の解釈と自分の解釈との違いが、どこから生じたのか、考えようとしている。	行動の観察
読む能力	現代的な解釈をとおして、昔の人達の思いや生活文化と今の私達との共通点や違いについて考えを深めている。	「幼なじみ」「恋」「成人」「結婚」という人生それぞれの場面における昔の人達の習俗や考え方と、今の私達のそれとを比較し、人間に対する理解を深めている。	行動の確認
知識・理解	和歌というものがある日本の優れた伝統文化の一つであり、時代を超えて歌い継がれ、人々の心を捉えてきたことを理解している。	「歌物語」の中で和歌が感動の中心を占めていることにも示される、和歌という短詩型文学がもつ優れた特性を理解している。	行動の観察

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	幅広く本や文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。	様々な本や文章を読み、人間、社会、自然などについて、自分なりの考えを形成しようとしている。	行動の観察
読む能力	幅広く本や文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	様々な本や文章を読み、人間、社会、自然などについて、自分なりの考えを形成している。	行動の確認
知識・理解	言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化について理解している。	伝統的な言語文化へ多様な方面から迫り、我が国の言語文化の独自の性格やその価値に気付いている。	行動の観察

学習のねらい	○意味の切れ目に注意して音読し、作品世界をイメージ豊かに味わう。		
言語活動例	C読むこと(2)ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。		
教材名	うたう心 万葉集・古今和歌集・新古今和歌集	配当時間	3
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ア・ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(7)(イ)・イ(7)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	歌の調子に気をつけて音読しようとする。	歌の調子、意味の切れ目に注意して音読し、作品世界を味わおうとしている。	行動の観察
読む能力	それぞれの歌に描かれた情景と思いを読み取ることができている。	それぞれの歌に描かれた情景と思いを読み取り、わかりやすく説明することができている。	行動の確認
知識・理解	和歌の修辞について理解している。『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の文学史的意義を理解している。	『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の作られた時代や、言語・内容・修辞等のそれぞれの特徴を理解している。	記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付こうとしている。	行動の観察
読む能力	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。	行動の確認
知識・理解	国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解している。	文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	記述の確認

学習のねらい	○会話の内容と意図を明らかにし、人物のものの見方や生き方を捉える。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。		
教材名	木曾の最期（平家物語）	配当時間	6
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ア・ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(7)(イ)・イ(7)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	音読を通じ、語り物独特の言葉遣いや調子の特徴を捉えようとする。	音読することをおして、語り物独特の言葉遣いや、調子の美しさを感じ取ろうとしている。	行動の観察
読む能力	登場人物の人物像と心情を読み取っている。	木曾殿と今井四郎の人物像をまとめ、互いを思い合う気持ちを読み取っている。	行動の確認
知識・理解	『平家物語』の文学史的意義を理解している。敬語の意味と用法を理解している。	『平家物語』の文学史的意義を理解している。平家物語に特徴的な敬語について理解している。	記述の観察

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文
言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。	文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。	行動の観察
読む能力	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。	行動の確認
知識・理解	国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割、などを理解している。	国語の表記、語句、語彙、文法の特色について理解している。	記述の観察

学習のねらい	○漢文訓読法は日本で創出されたものであり、漢文は日本の古典であることを理解する。 ○何度も繰り返し音読して、漢文の読み方について理解する。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。		
教材名	漢文の世界へ 故事成語	配当時間	2
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ア 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(7)(イ)・イ(7)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	漢文の意義について理解し、故事成語について考えようとする。	漢文の意義について理解し、故事成語を実際に使ってみたり、調べたりしようとしている。	行動の観察
読む能力	書き下し文と漢文の双方をを讀むことができている。	書き下し文を参照しながら、返り点に従って漢文を讀むことができている。	行動の確認
知識・理解	漢文の訓読のきまりについて理解している。	漢文の訓読に必要な、返り点などのきまりを理解している。	行動の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読もうとする。	文学的な文章を、文章の種類や類型、書きぶりの違いなどを踏まえて読もうとしている。	行動の観察
読む能力	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。	文学的な文章を、文章の種類や類型、書きぶりの違いなどを踏まえて読んでいる。	行動の確認
知識・理解	文語のきまり，訓読のきまりなどを理解している。	漢文を讀むことに役立つ，訓読のきまりを身に付けている。	行動の確認

学習のねらい	○何度も音読し、「虎の威を借る」の意味について理解を深める。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。		
教材名	虎の威を借る	担当時間	2
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(7)(イ)・イ(7)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	漢文の意義について理解し、故事成語について考えようとする。	漢文の意義について理解し、故事成語を実際に使ってみたり、調べたりしようとしている。	行動の観察
読む能力	描かれている場面の状況と、そこにおける狐の思惑、それによる事態の推移とを理解している。	描かれている場面での、狐と虎の会話の内容と事態の推移を把握し、物語の面白さがどこにあるのか、理解している。	記述の点検
知識・理解	漢文の訓読と書き下し文は日本特有の文化であることを理解している。	返り点があるところは、なぜ日本語と語順が違うのか理解している。	行動の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。	人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などに果たしている効果に気付こうとしている。	行動の観察
読む能力	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などに果たしている効果に気付いている。	記述の点検
知識・理解	言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化について理解している。	我が国の言語文化は、中国をはじめとする外国の文化の受容とその変容とを繰り返しつつ築かれてきたことに気付いている。	行動の確認

学習のねらい	○何度も音読し、「蛇足」の意味を明らかにして、たとえの面白さを味わう。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。		
教材名	蛇足	配当時間	2
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)エ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(7)(イ)・イ(7)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	日本語としても定着している「蛇足」という言葉がどのように生まれたのか、理解しようとする。	「蛇足」という言葉がどのように生まれたのか、そのもととなった故事から読み取り、理解しようとしている。	行動の観察
読む能力	登場人物達の会話ややりとりを把握し、その結末を通じて筆者が伝えたかったものは何か、理解している。	登場人物達の会話と行動を把握し、その心情を推し量ることで、日本語ともなっている故事成語の面白さを味わっている。	記述の点検
知識・理解	漢文によく使われる語句や句法について理解している。	使役形などの基本的な漢文の句法に慣れ、再読文字を訓読することができる。	行動の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図を捉えようとする。	考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えようとしている。	行動の観察
読む能力	文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図を捉えている。	考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の筋道を的確に捉えている。	記述の点検
知識・理解	文語のきまり、訓読のきまりなどを理解している。	漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。	行動の確認

学習のねらい	○返り点に注意して音読し、詩の世界を豊かに思い描く。		
言語活動例	C読むこと(2)ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。		
教材名	漢詩の世界	配当時間	5
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)ア・ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(7)(イ)・イ(7)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	想像力をはたらかせながら漢詩を読み、そのリズムのよさを味わおうとする。	漢詩に描かれている情景や作者の心情を感じ取ろうとしている。	行動の観察
読む能力	漢詩に描かれている場面や風景を味わい、作者の心情を読み取っている。	語の意味、詩句の内容、詩句と詩句のつながり、全体の構成などを理解し、作者の心情を読み取っている。	行動の分析
知識・理解	唐代の時期における漢詩のきまりについて理解している。	唐代における、形式・押韻・対句などの漢詩のきまりを理解している。	行動の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付こうとしている。	行動の観察
読む能力	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。	行動の分析
知識・理解	文語のきまり、訓読のきまりなどを理解している。	漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。	行動の確認

学習のねらい	○『論語』の言葉に表された、人生や人間についての考え方を捉え、自己の問題として考える。		
言語活動例	C読むこと(2)エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。		
教材名	論語の言葉	配当時間	3
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)イ・オ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(イ)・イ(ア)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	論語の言葉の中から自分の生活と関連づけ、印象的な言葉を見つけ出そうとする。	「学問」「生き方」「人との関わり」の三分野の論語の言葉の中に、生きていく上での真理を見いだそうとしている。	行動の観察
読む能力	論語で語られていることを、自分の日常の世界に置き換え、具体的に捉え、わかりやすく説明しようとしている。	論語が語る真理を自分の日常生活の中に見だし、実践的な真理として捉え、わかりやすく説明しようとしている。	行動の確認
知識・理解	孔子の思想が、日本の社会や政治で大きな役割を果たしていたことを理解している。	奈良時代に儒教の経典である四書の一つとして伝えられ、現代まで日本の思想や道徳に大きな影響を与えている論語の重要性を理解している。	記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の内容を必要に応じて詳述しようとする。	目的に応じて、分かりやすく説明しようとしている。	行動の観察
読む能力	文章の内容を必要に応じて詳述している。	目的に応じて、分かりやすく説明している。	行動の確認
知識・理解	国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解している。	漢語の流入と定着という、語彙の歴史的な経緯について理解している。	記述の確認

学習のねらい	○主人公の行為の意図をとおして、人物像を明らかにする。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。		
教材名	蓋頭上題合字（史話を読む） 前有大梅林（史話を読む）	配当時間	2
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)イ・ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(7)(イ)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章で語られるエピソードから、登場人物の人間性を捉えようとする。	日本でもなじみ深い「三国志」に登場する曹操の人物像について、二つのエピソードの中で語られる具体的なできごとから考えようとしている。	行動の観察
読む能力	主人公の言葉と行為の意図とを理解し、そこから見える人物像を捉えることができる。	戦乱の時代を生きた曹操の逸話から、当時の優れた支配者かつ戦略家としての人物像を捉えることができる。	行動の確認
知識・理解	訓読の決まりを身につけ、漢文を訓読することができる。	漢文を訓読し、書き下し文に直すことができる。	記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章の内容を必要に応じて詳述しようとする。	目的に応じて、分かりやすく説明しようとしている。	行動の観察
読む能力	文章の内容を必要に応じて詳述している。	目的に応じて、分かりやすく説明している。	行動の確認
知識・理解	文語のきまり，訓読のきまりなどを理解している。	漢文を読むことに役立つ，訓読のきまりを身に付けている。	記述の確認

学習のねらい	○時間の経過にそってできごとを整理し，戦いの駆け引きを読み味わう。		
言語活動例	C読むこと(2)イ 文字，音声，画像などのメディアによって表現された情報を，課題に応じて読み取り，取捨選択してまとめること。		
教材名	死諸葛走生仲達（史話を読む）	配当時間	3
学習指導要領の指導事項	C読むこと(1)イ・ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(7)(1)		

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	戦乱に明け暮れる三国時代の英雄達の戦いでのかけひきの面白さを捉えようとする。	文章に描かれている，蜀の諸葛亮，魏の司馬懿，三国時代の両雄の軍略上の駆け引きの面白さを捉えようとしている。	行動の観察
読む能力	両雄の間で繰り広げられる駆け引きがどのようなものであったか。また，二人の性格の違いはどのようなものであったかを読み取っている。	この文に冠されたタイトルが表している三国志の両雄の行動と，そこに至るまでのかけひきのおもしろさやそこに見える両雄の性格の違いを読み取っている。	行動の確認
知識・理解	日本では，漢字や中国語などの中国文化を受容し，それを変容させる中で独自の言語文化が築かれてきたことを理解している。	日本の書き言葉の始まりとなった漢字をはじめ，漢文訓読などにより，日本の言語文化が中国文化を受容し，それを変容させることで築きあげられてきたことを理解している。	記述の確認

参考：『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月）の文言に即した評価規準の設定例

評価の観点	単元の目標	具体的な評価規準	評価方法
関心・意欲・態度	文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わおうとする。	文章に描かれている情景を，文や文章，語句などから離れないようにして読み，人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。	行動の観察
読む能力	文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わっている。	文章に描かれている情景を，文や文章，語句などから離れないようにして読み，人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。	行動の確認
知識・理解	言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き，伝統的な言語文化について理解している。	我が国の言語文化は，中国をはじめとする外国の文化の受容とその変容とを繰り返しつつ築かれてきたことに気付いている。	記述の確認